

2021年度NPO法人とちぎ協働デザインリーグ
事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

2022年3月31日

総 括

2021年事業報告の総括

1 概要

2020年度に引き続き2021年度も非常事態宣言やまん延防止重点地区指定が繰り返し発せられるなどコロナ禍が続くなかで、ぽ・ぽ・らの管理運営を行った。

リーグ事業としては「つながり回復プロジェクト」を企画し、栃木県共同募金会の公募事業を活用し、リレー講座(6回)、考える会(8回)を実施した。

県内NPO等においては、コロナの影響により、活動の維持・継続・再開を迷っている団体、活動再開の課題を模索中の団体、新たな取り組みや工夫した活動を実践している団体等、各団体の実情により、様々な状況が見られる。

今後の明るい見通しとしては、ワクチンの摂取率の上昇、治療薬や医療の進展により、感染抑制、重症化回避の可能性が広がっていることがある。

懸念材料としては、ワクチン接種しても感染例があること、変異型による感染拡大を繰り返す可能性も存在することがある。

今後も感染防止策を継続して実施し、新型コロナの存在を前提にした上で、NPOらしい前向きな活動を模索していくことが求められる。

3 総括 2

2 コロナ禍でのぽぽらの管理運営について

(1) 新型コロナの感染防止を徹底した。

新型コロナまん延時には、(県の方針に則り)貸し館の中止が行われた。貸し館以外の相談業務、担い手育成は、通常通り実施した。基本的には、公民館運営のガイドラインに基づき実施した。

(2) オンライン化への適応

直接対面型の事業の重要性を認識しつつもオンライン化の習熟、活用に努力した。事業のオンライン化を進め、研修、会議等での活用を進めた。関係者との打ち合わせや相談でもZOOMを取り入れた。

→新型コロナの対策という面だけではなく、中間支援の一手法として、可能性が広がった。

→オンラインぽぽらの可能性があり、今後考え方や手法を洗練させていくこととしたい。

総 括

3 アフターコロナ禍におけるNPO支援の課題

(1) つながり回復

- ・ 社会全体において、つながりの希薄化が進んでいる。目立たない形で進んでおり、コロナ禍が一定程度収まったとしても、回復しない可能性もある。
- ・ NPO等もつながりの衰弱が懸念され、草の根の団体には、活動廃止縮小の様子もうかがえる。

(2) 地域づくり

- ・ ぽぽらの担い手育成や相談等においては、組織マネジメント中心(担い手育成)で実施してきたが、地域課題との取組も重要なテーマとなっている。

4 つながり回復プロジェクト事業(リーグ事業)

- ・ NPO等の活動上でのつながり回復を目的に実施した。栃木共同募金会の公募事業により、財源を確保した。当会理事や社会福祉協議会や市町中間支援センター等の有志の協力を得て「リレー講座」及び「つながり回復を考える会」を実施し、結果を製本頒布した。今後、事業を発展的に継続していきたい。

事業の評価等

事業名	コメント	定款事業名	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
1-(1)相談支援業務	前年と件数や傾向に大きな変化はなかった。 コロナという表現の相談は減少したが、解散に係る相談が増加傾向にある。	③団体支援事業	職員6名	4,424
1-(2)施設運営・受付対応業務	来館者が安心して利用できるように、感染症対策を実施した。 図書資料の充実を図った。利用者については、前年と大きな変化はなかった。	⑦社会貢献活動拠点の支援事業	職員6名	1,906
1-(3)情報収集発信業務	ホームページ、SNSメールマガジン等を駆使して、情報発信に努めた。紙媒体である情報誌は、スケジュールがオンタイムで進まず、課題が残った。	⑥情報発信事業	職員6名	5,025
1-(4)NPO担い手育成業務	概ね予定通り開催できた。また、コロナウイルス感染症に対してもオンライン等の対応をもって実施できた。	①人材育成事業	職員6名	5,128
1-(5)市町市民活動支援センター支援業務	市町支援センター向けに行っていた、スタッフ研修をオンライン及び回数を増やし、顔の見える関係づくりに努めた。 また、オンライン化は他県の支援センターとつなぐツールとして活用できた。	⑦社会貢献活動拠点の支援事業	職員6名	1,134
1-(6)ネットワーク運営業務	公民館や社会福祉協議会と連携して事業を行えるように、足がかりを作っていた。 また、シルバー大学との連携を図り、事業化を行った。経済団体、土業界との事業は実施テーマを検討するにとどまった。	④協働コーディネート事業	職員6名	2,022
2-1つながり回復プロジェクト	前年度のアンケート調査を基に、事業を企画運営出来た。 ほぼすべてのプロセスをオンライン化することにより、新たなノウハウの蓄積へとつながった。	⑤政策提言事業	16名	1,749
2-2 地域コミュニティ再生促進事業	貴重な現地実習となった。自然学校の取り組みについても、親子での参加者等があったことにより、効果的だった。	②調査研究事業	5名	31

1 とちぎボランティアNPOセンター 管理運営業務

1 センター運営の基本方針

■ 事業の方向性

(1) **伸ばす** 次代のNPO担い手育成(エンパワメント)

- ・NPO活動の停滞を打破するため、きめ細かな相談や体系的な研修事業を通じてマネジメント人材を育成

(2) **つなぐ** 市町センターとの連携、多様な主体による協働推進

- ・市町センターは地域密着の支援、場所を活用した支援、地域内協働などに適性あり。
- ・本法人に蓄積されたノウハウや人的情報、支援情報などの提供、連携向上のための積極的訪問と支援
- ・県域ネットワークの強化による多様な主体の協働推進、NPO・市民活動団体の支援拡大

(3) **育む** 社会貢献活動・地域社会活動への参加促進

- ・社会貢献活動への参加減少の現状の中、関係機関との連携協働による、県民の参加促進

2 業務一覽

(1) 相談支援業務



(2) 施設運営・受付対応業務



(3) 情報収集・発信業務



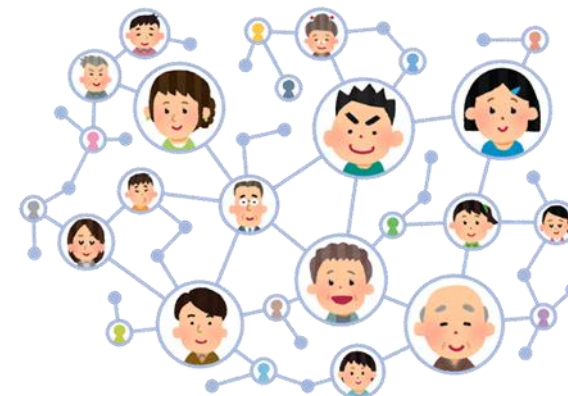
(4) NPO担い手育成業務



(5) 市町市民活動 支援センター支援業務



(6) ネットワーク運営業務



3 事業内容

(1) 相談支援業務

(1) 相談支援業務

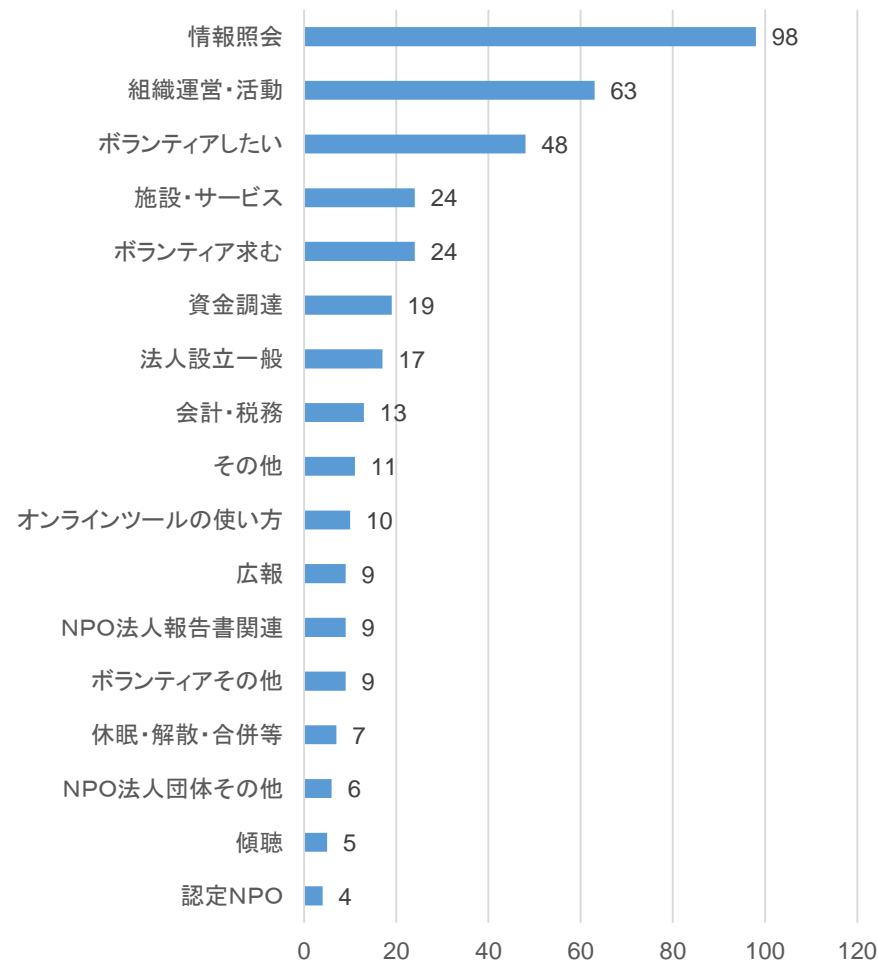
目的

個人の社会貢献活動参加やNPO等の設立、運営等に係る課題について助言、コーディネートを行い、県内のNPO活動の活性化を図る。

内容

① 運営スタッフによる相談・コーディネート

相談種別



内容

相談件数: 402件(前年同期414件)3月末現在

延べ相談時間: 11,627分(約193時間)

主な内容:

1) 情報照会

個人からの相談が最も多く、心の相談など支援機関の照会が多い。

特に相性が大切な支援機関については、複数の照会を行うなどの配慮を行った。

次点で、マスコミからの照会が多く、コロナ禍でも活動しているNPO等の情報などがあり2月以降はロシアによるウクライナ侵攻の影響を受け、避難者受け入れなどを行う、国際交流団体等の照会が目立った。

スタッフの個別スキルに頼るところも多く、既存資料の改定等を行い、相談者の期待に応えるようにしていきたい。

2) 組織運営・活動

約半数がNPO法人からの決算や総会、また登記に関することなどの相談であり、テクニカルな内容が多い。2割弱が中間支援組織から上記のような相談を「団体」から受けての、問い合わせであった。

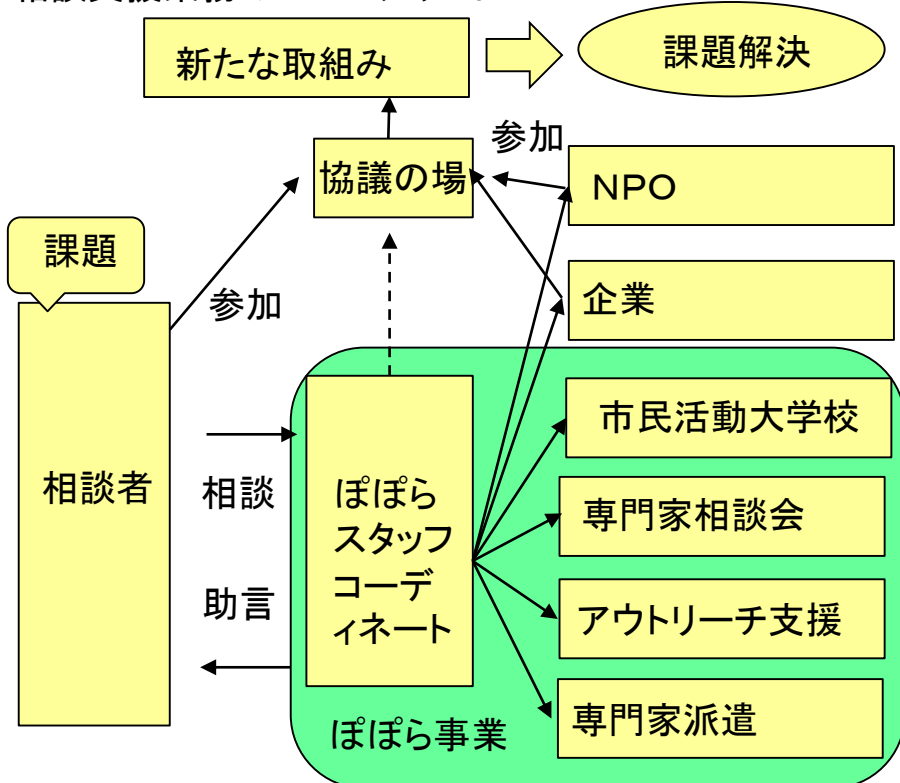
対処療法となることが、多く根本解決には情報発信や、講座等で伝えることが必要と感じている。

(1) 相談支援業務

一方、法人格を持たないボランティア団体からの相談は、組織内の合意形成や方向性の統一など、ソフト的な課題が多く、これらは専門家派遣や出前講座等別事業に発展、対応していった。

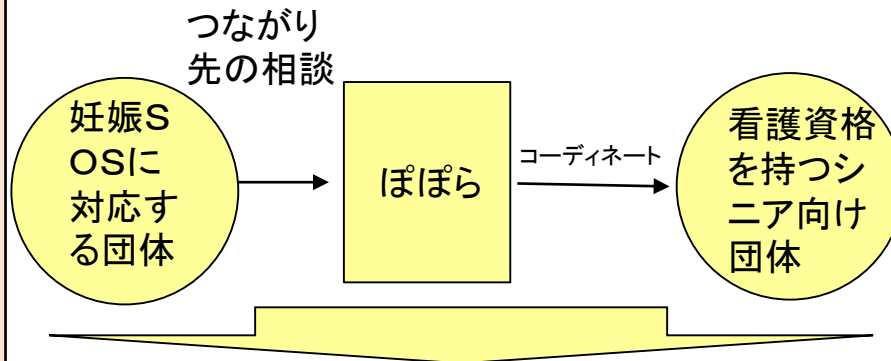
3) ボランティアしたいといった相談は、前年比1.5倍となり、コロナ禍での萎縮から脱却している兆しが見えてきた。希望する活動は多様であり、情報収集と情報のアップデートが重要である。

相談支援業務のフローチャート



内容

相談事例



内容

妊娠SOS団体: 自団体のコンテンツ作りの監修を看護資格を持つ団体が行うことで精度が上がった。

看護資格団体: 若者に発信するツールを妊娠SOS団体から学び、発信先を増やした。

互いの持ち味を活かしながら、継続して協働を行っており、成果を見守りながら、必要に応じてスタッフが伴走を行っている。

(1) 相談支援業務

②研修、専門家派遣事業と連携したアウトリーチ型支援
コロナウイルス感染症及び緊急事態宣言等も重なった
が、一部、オンラインでの相談対応など、代替え手段で
実施した。また、出来るだけアウトリーチ型の支援に努め
た。

ア A自治会からの相談支援

- ・日 時:2021年11月11日(木)
- ・会 場:日光市民活動支援センター
- ・出席者:栃木県コミュニティ協会南氏、日光市民活動
支援センター吉田所長、ぽ・ぽら涌泉

内 容:ゴミステーションの問題、祭りの継承、地域の資
源、活動の活性化、活動の広報の仕方など自治会活動
全般についての相談を受けた。栃木県コミュニティ協会
でも、伴走支援ができることとなった。

その後の相談を日光市民活動支援センターに繋いだ。
日光市市民活動支援センターからは、「同じようなバック
グラウンド持つ自治会の、SNS活用事例について」の情
報照会があり、遠隔相談で連携しながら伴走支援を
行っている。

イ Bまちづくり推進協議会へのアウトリーチ支援
NPO等への専門家派遣の事前打合せを行った。

日 時:2022年1月25日(火)14:00~15:00

会 場:地域コミュニティセンター

出席者

- ・まちづくり推進協議会:会長、副会長
- ・宇都宮市生涯学習センター2名
- ・宇都宮市みんなでまちづくり課2名
- ・ぽぽら2名

内 容:地域の担い手不足、役員会の進め方等

内
容

③専門家による相談・コーディネート

ア NPOの会計税務及び労務相談会in宇都宮市

日 時:2021年6月26日(土)13:30~16:30

会 場:宇都宮市まちづくりセンター まちぴあ

専門家:鈴木圭吾税理士

谷田部浩史社会保険労務士

参加者:会計税務-3団体

相談内容:

<会計>①活動費の科目別記載方法
雑収入へ計上したものの記載
B/Sの数字の記載

- ②消費税、収益事業、給与支払報告書
- ③謝金の性格、上部団体との関係

<労務>①NPOの労務における課題
育児休業、介護休業等
マイナンバーの収集

内
容

(1) 相談支援業務

内容	<p>イ NPOの会計税務及び労務オンライン相談会 ※新型コロナの感染拡大により、オンラインに変更 日 時: 2021年9月15日(水)13:30 ~ 16:00 会 場: オンライン及びぽ・ぽ・ら 専門家: 牧野安浩税理士 谷田部浩史社会保険労務士 参加者: 会計税務-2団体、労務-1団体 相談内容: <会計> ①青色申告、税金(所得税、市民県民税) ②免税団体における貯蓄 <労務> ①就業規則の改正 就労に必要な知識及び能力の開発の 向上に資する免許、検定等 在宅勤務の規定 時間休 傷病休暇制度</p> <p>④「相談強化月間」の実施 3~5月を「相談強化月間」として、NPO法人の総会時期に合わせ、事業報告書作成や総会後の事務手続きの疑問点などについて、集中的に相談に応じた。 ・3~5月相談強化月間「事業報告」実施(7件対応) <相談内容> ・NPO法人の総会資料の作り方について ・貸借対照表の公告について ・均等割の免除申請について</p>	内容
	④「相談強化月間」の実施 3~5月を「相談強化月間」として、NPO法人の総会時期に合わせ、事業報告書作成や総会後の事務手続きの疑問点などについて、集中的に相談に応じた。 ・3~5月相談強化月間「事業報告」実施(7件対応) <相談内容> ・NPO法人の総会資料の作り方について ・貸借対照表の公告について ・均等割の免除申請について	成果・課題

⑤相談集計分析、相談対応力の向上

- ・相談集計分析(毎月)
- ・スタッフ間でのケース会議の実施
- ・内部管理システムを活用した相談事例の共有

⑥協働の理解促進を図る講座等への講師派遣(出前講座)

- ・地域、学校等への講師派遣

再掲: 出前講座「栃木県社会福祉協議会初任者研修」

- ・詳細は市民活動大学校出前講座に掲載

- ・相談対応の中から、別事業(専門家派遣等)へつなぎ、切れ目のない支援につなぐことが出来た。
- ・アウトリーチ型の支援では、地縁型団体の担い手育成が課題であり、NPO等やシルバー大学等との連携が重要であることも見えてきた。

② 専門家による相談・コーディネート

相談強化月間 チラシ

3・4・5月のほ・ほ・らは NPO 法人の皆様へ
総会準備・事業報告書等相談月間
です！！

とちぎボランティアNPOセンター「ほ・ほ・ら」では、NPO 法人の総会時期に合わせ、事業報告書作成や総会後の事務手続きの疑問点など、NPO 法人の皆様からのご相談をお受けしていますので、お気軽にご利用ください。

○総会に向けた確認事項

総会開催に当たっては、以下の準備が必要です。

- 事業報告書
- 計算書類等（活動計算書、貸借対照表、財産目録）
- その他、定款の定めにあるもの等

総会后に必要な手続きは次のとおりです。

- 所轄庁への事業報告書等の提出
 - 貸借対照表の公告
- ※役員の変更・重任などがあれば、法務局への変更登記

気軽に相談して
ほしいまる～！



○「貸借対照表の公告」の変更はお済みですか？

平成 30 年 10 月の改正 NPO 法施行に伴い、定款で定めた方法での「貸借対照表の公告」が必要です。皆さんの団体の定款の変更はお済みですか？総会以外では定款変更をすることが出来ませんのでご注意ください。

○相談に当たってのお願い

- ・自団体の資料をお持ちの上、ご相談ください。オンラインも可能です。
- ・電話でも対応させていただきますが、ご来所またはオンラインでは、より具体的にお話できます。
- ・相談の際は事前にご予約ください。

とちぎボランティア NPO センター ほ・ほ・ら
TEL : 028-623-3455 FAX : 028-623-3465
Mail : popola@tochigi-vnpo.net

会計税務・労務相談会in宇都宮市



(2) 施設運営・受付対応業務

(2) 施設運営・受付対応業務

目的	来館者が、快適かつ安全安心に施設設備を利用できるように努め、社会貢献活動拠点機能の充実を図る。		
内容	<p>①施設・機器・物品等の管理</p> <ul style="list-style-type: none">・各種利用受付、鍵の貸出し等・利用団体情報の登録変更・削除等・メールボックス・ロッカーの管理(事務所機能の提供)・図書や各種資料、書類(定款・事業報告書含む)の整理 <p>②施設利用月次集計・分析</p> <ul style="list-style-type: none">・来館者数 12,955名 (前年度 12,662名)・研修室利用件数 388件 (前年度 361件)・作業室(印刷機)利用件数 56件 (前年度 47件)・センター利用登録団体 417団体 (前年度 417件)・メールボックス利用登録数:25件 (前年度 21件)・ロッカー利用登録数36件 (前年度 37件)	内容	<p>③新型コロナウイルス感染拡大防止の対応</p> <p>公益社団法人全国公民館連合会が作成したガイドラインに準じて作成した「新型コロナウイルス感染拡大予防施設管理運営方針」により、来館者等の感染拡大防止策を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・来館者の検温実施・来館者名簿の収集管理・手指消毒薬の常備・閉館時の研修室等除菌作業の励行・感染拡大防止啓発の掲示・感染状況を見極めての臨機応変な対応 <p>■特記事項</p> <ul style="list-style-type: none">・蔓延防止措置に基づき、研修室利用者数は定員の半分として通年貸し出した。・昨年は緊急事態宣言を受け、約1ヶ月半研修室の新規予約受付を中止したが、利用者は昨年・本年ほぼ同数。コロナ禍による活動自粛や活動中止の影響と思われる。

(3) 情報収集・発信業務

(3) 情報収集・発信業務

<p>目的</p>	<p>県内NPO等の活動や全国の先進事例、行政、企業等による支援情報等を収集し、ホームページやSNS、情報誌など、発信に適した媒体を活用し発信を行う。</p>	<p>内容</p> <p><Facebookで反応の良かった記事> 相談強化月間、SDGs講座、会計基礎講座、リビングとちぎ掲載記事、土砂災害、いちご編みワークショップ など</p> <p>・情報誌の編集発行(3000部) 夏号 2021年9月発行 特集:『コロナ禍でも活動する若者たち ～若い視点に学ぶ～』 取材先①一社若年者支援機構 子ども食堂サポートセンター・とちぎ 荻野 友香里氏 サブテーマ:「オンラインがもたらした出会い」 概略:学生に関わってもらおうコツ</p> <p>取材先②デモクラティックスクールつながるひろば 宇賀神 雄太氏 概略:つながりの場のみつけ方</p> <p>取材先③:特定非営利活動法人キーデザイン 土橋 優平氏 概略:コロナ禍で活躍したツール</p> <p>趣旨:コロナ禍においても工夫しながら活動を行っている若年活動者層を取り上げ、シニア層も若年者活動者層から学び合える関係性作りを目指した。</p>															
<p>内容</p>	<p>①情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動、協働、企業のCSR活動、SDGs等に関する情報の収集 <p>②情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・SNSの充実(ブログ、フェイスブック等) ・フォロワー、「いいね」を増やす取組 ・ホームページ上で情報誌バックナンバーを公開 <p>■主な情報発信先</p> <p>NPO法人、ぽぽら登録団体、市町センター 地域協働推進員、社会福祉協議会、経済団体 青年会議所、図書館、公民館、高校、大学、市町担当課、県庁各課、出先機関、他県の県域市民活動支援センター等</p> <table border="1" data-bbox="174 982 1023 1290"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2021年度</th> <th>2020年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HP閲覧数</td> <td>65,968</td> <td>44,013</td> <td>150%</td> </tr> <tr> <td>ブログ閲覧数</td> <td>82,887</td> <td>87,764</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>Facebook閲覧数</td> <td>18,635</td> <td>30,054</td> <td>62%</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2021年度	2020年度	比較	HP閲覧数	65,968	44,013	150%	ブログ閲覧数	82,887	87,764	94%	Facebook閲覧数	18,635	30,054
項目	2021年度	2020年度	比較														
HP閲覧数	65,968	44,013	150%														
ブログ閲覧数	82,887	87,764	94%														
Facebook閲覧数	18,635	30,054	62%														

(3) 情報収集・発信業務

内容	<p>冬号 2022年3月発行 特集:『皆が互いに繋がり合うことで助け合いの地域づくりを』(地域共生社会) 事例:NPO法人福聚会 サブテーマ:「『助け合い』を支える市民活動事例(地域に合ったサービスを作り出す)」</p> <p>趣旨:「地域共生社会」とは何かを市民に理解してもらい、各々の地域で何をすべきかについて考え、行動するきっかけにしよう。</p> <p>・メールマガジンの配信 (月2回発行及び臨時号5回 計24回) 2022.03.23 No.500発行</p> <table border="1" data-bbox="178 805 1025 932"><thead><tr><th></th><th>2021年度</th><th>2020年度</th><th>比較</th></tr></thead><tbody><tr><td>登録者数</td><td>810</td><td>783</td><td>103%</td></tr></tbody></table> <p>・リーフレットの配布 関係機関に配布した。</p>		2021年度	2020年度	比較	登録者数	810	783	103%	
	2021年度	2020年度	比較							
登録者数	810	783	103%							
成果・課題	<p>成果:今年度より、全市町からの広報紙を取り寄せ、情報収集・発信業務の拡大を行った。</p> <p>課題:新規顧客拡大へのアプローチ</p>									

(3) 情報収集・発信業務

情報誌ぼ・ぽ・らmagazine

VOL. 33 [2022 Spring]



特集 皆が互いに繋がりが合うことで、助け合いの地域づくりを

VOL. 32 [2021 Autumn]



特集 コロナ禍でも奮闘する若者たち～若い視点に学ぶ～



(4)NPO担い手育成業務

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

■ 目的

NPOの中核的人材を育成するとともに、より多くの県民が社会貢献活動への関心を高めることを目的に実施した。特にコロナ禍において多くの参加者を招集することが難しくオンラインを積極的に取り入れたほか、ゼミ形式で参加者とのコミュニケーションを重視し、開催した。

モデル例	講座名				
経営マネジメント	I-1 NPOマネジメント 診断	I-2 ファンドレイジン グ～私たちの資 金調達～	I-3 労務基礎講座	I-4 理事・監事のため のガバナンス 講座	
企画力・スキル アップ	II-1 NPO会計基礎 講座	II-2 オンライン会議に 慣れよう！講座	II-3 企画・プレゼン力 向上講座 企画を作る際のポイント	II-4 企画・プレゼン力 向上講座 伝わる企画書とプレゼンのポイント	II-5 事業報告の作り方
協働推進員養成 講座	III 協働とは	III 協働現地実習	III 協働現地実習	III 振り返りとまとめ	
社会情勢や課題等	IV-1 今更聞けない、コ ロナ禍での活動 の仕方	IV-2 NPOとつながる 地域づくり	IV-3 NPOと つながるSDGs	IV-4 人とつながる 地域共生社会	

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

NPOマネジメント診断

I-1 NPOマネジメント診断
～ミッションを達成するために生き活きと働ける組織となろう～

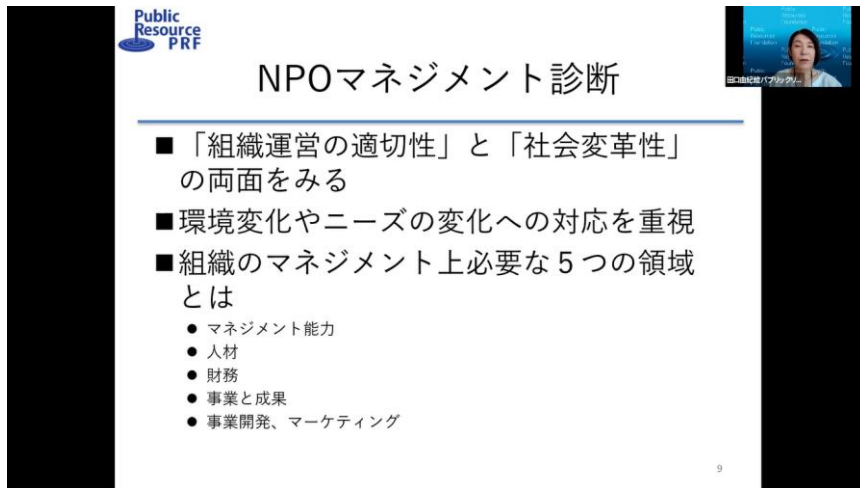
日時:①2021年7月21日(水)14:00～16:00
②2021年7月22日(木・祝)14:00～16:00

会場:オンライン(ZOOM)

講師:公益財団法人パブリックリソース財団
事務局長 田口 由紀絵 氏

参加者:①有給雇用者がいる団体7名
②①以外の団体7名

内容:マネジメントとは?かできていないと、どのような課題が出てくるのか?などマネジメントの重要性を学んだ。また、パブリックリソース財団が開発した診断シートを用いて、各団体が自己診断を行い、現状分析を行った。



Public Resource PRF

NPOマネジメント診断

- 「組織運営の適切性」と「社会変革性」の両面をみる
- 環境変化やニーズの変化への対応を重視
- 組織のマネジメント上必要な5つの領域とは
 - マネジメント能力
 - 人材
 - 財務
 - 事業と成果
 - 事業開発、マーケティング

9

成果・課題

- ・日時を参加者の層に分けて実施することにより、レベル感を統一することができた。
- ・参加者アンケートからも、同じような課題に向き合っている仲間意識が形成できたことが感じられた。
- ・また、事前に自己診断をしてもらったことも、セミナーの内容を充実させた。
- ・自団体の不足の部分等を、その後の市民活動大学校カリキュラムにおいて補えるようなプログラムとして、今後も「入口」の講座として確立していきたい。

I-2 ファンドレイジング～私たちの資金調達～

日時:2021年10月8日(金)10:00～12:00

会場:とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら
オンライン(ZOOM)

講師:認定ファンドレイザー 池田 秀昭 氏

参加者:NPO法人、市民活動支援センター、NPO担当
課等 15名

共催:宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ
協力(サテライト会場)

- ・小山市民活動センターおやまーる
- ・かぬま市民活動広場ふらっと
- ・真岡市市民活動推進センターコラボーレもおか
- ・さくら市市民活動センター

ファンドレイジング

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

資金調達にはファン(FAN・FUN)ドレイジングと捉え、いかにファン(応援してもらう・楽しんでもらう)かを学んだ。
支援=共感×納得+信頼の方程式の元、共感とはどのようなことか?納得するとは?信頼とは?を紐解き、ドナージャーマップ(支援者の見える化)をもちいて、はじめましての人に端的に自らを説明する練習を行った。



I-2 助成金合同説明会

上記ファンドレイジング講座に併せて、同日午後、宇都宮市まちづくりセンター主催「助成金合同説明会」に共催、実施した。

日時:2021年10月8日(金)13:30~16:30

会場:とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽら
オンライン(ZOOM)

講師:各助成金実施団体担当者
参加者:延べ40名
共催:宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ
協力(サテライト会場)

- ・小山市市民活動センターおやまーる
- ・かぬま市民活動広場ふらっと
- ・真岡市市民活動推進センターコラボーレもおか
- ・さくら市市民活動センター

紹介された助成事業

- ・とちぎコープ生活協同組合
「とちぎコープNPO法人助成金」
- ・社会福祉法人栃木県共同募金会
「赤い羽根応援プロジェクト」ほか
- ・とちぎコミュニティ基金
「花王ハートポケット倶楽部助成」ほか

成果・課題

- ・コロナ禍において、共催・協力を市町支援センターにお願いし、連携できたことは、大きな一歩になったと感じた。
- ・事業により、向き不向きもあるが今後も取り入れていきたい手法である。
- ・また、資金調達の話と助成金説明会は、相性が良いので、絡める形で実施していきたい。

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

労務基礎講座	<p>I-3 労務基礎講座① 「労務オンラインセミナー」 日時:2021年7月1日(木)13:00~15:00 会場:オンライン(ZOOM) 講師:栃木働き方改革推進支援センター 専門家 社会保険労務士 谷田部 浩史氏 参加者:8名 内容 ・講義:NPOの雇用・労働、労働基準法の概要、労務 手続、働き方改革、助成金等 ・質疑応答 ボランティアと労働者の違い、謝金額の根拠、 36協定について、ボランティア保険について、 ダブルワークの職員への超過勤務手当について</p> <p>I-3 労務基礎講座② 「オンラインミニセミナー&オンライン個別相談会」 日時:2021年10月13日(水)13:30~15:00 会場:オンライン(ZOOM) 講師:栃木働き方改革推進支援センター 専門家 社会保険労務士 谷田部 浩史氏 参加者:2名 内容 ・講義:働き方改革、労働基準法の概要、労務手続、 NPOの雇用・労働等 ・質疑応答 労災保険について 濃厚接触者が出た場合の対応について</p>	<p>○参加者の感想等 アンケートの結果、内容については、大多数が「分かりやすかった」と回答した。主な感想等については、以下のとおり。 ・「ボランティア」と「労働者」の違いが分かりやすかった。 ・コロナによる濃厚接触者が出勤停止となったときの扱いについてお聞きすることができて、ありがたかった。 ・雇用調整助成金について教えていただき、就業規則の見直しの件も新たに知ることができて良かった。 ・「休憩時間」についての質問ができ、疑問が解消できたので良かった。 ・もう少しNPOの活動に対しての内容についての資料を加えていただけると良かった。</p> <p>成果・課題 ・「ボランティアと労働者の違い」について、参加者の理解が深まった。 ・コロナの濃厚接触者が出た場合の対応について、講師から、有休や在宅勤務、休業等の具体的な説明があり、他団体にも参考になった。 ・第2回は、オンラインによるミニセミナー&個別相談会の形式で実施したが、個別相談会には参加希望がなかった。 ・どのような形式が効果的か、次年度の事業企画を検討したい。</p>
--------	--	--

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

理事・監事のためのガバナンス講座

I-4 理事・監事のためのガバナンス講座
～持続性と信頼性を高めるために～

日時:10月22日(金)13:30～15:30

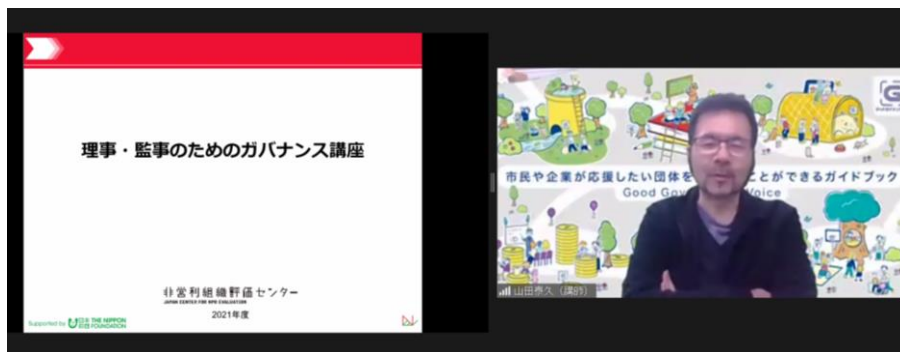
会場:オンライン(ZOOM)

講師:一般財団法人非営利組織評価センター
業務執行理事 山田 泰久 氏

参加者:NPO法人等12名

内容:

1. 理事と理事会について+ガバナンス
2. 監事と監事監査について
3. 非営利組織評価センターの組織評価について



成果・課題

「ガバナンス＝団体自身が団体を自律的に運営していくための仕組み」を理解し、理事又監事が日常でどのようなことを意識し、何をしなければいけないのかを学んだ。一方で、団体自身では、実感しにくい課題だと思われ、支援機関等を中心に開催も有効であると感じた。

NPO会計基礎講座

II-1 NPO会計基礎講座①

日時:2021年8月6日(金)13:30～15:30

会場:オンライン(ZOOM)

講師:とちぎボランティアNPOセンター

コーディネーター 町田 英俊

参加者:NPO法人等20名

内容:

- 1 NPO会計の基礎
- 2 日常業務で行うこと
- 3 事業費と管理費
- 4 人件費とその他経費
- 5 NPO法人が作成する会計書類等



(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

NPO会計基礎講座

Ⅱ-1 NPO会計基礎講座②

日時:2022年1月28日(金)13:30~15:30

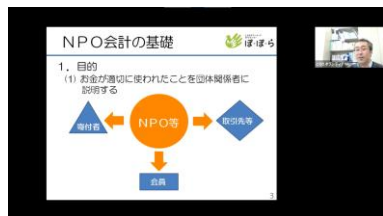
会場:オンライン(ZOOM)

講師:とちぎボランティアNPOセンター
コーディネーター 町田 英俊

参加者:9名

内容:

- 1 NPO会計の基礎
- 2 日常業務で行うこと
- 3 事業費と管理費
- 4 人件費とその他経費



成果・課題

時期をずらして2度開催することで、より多くの方に参加いただけた。一方で、対面で行っていたような、個別の質問等が難しく、工夫の余地を感じた。

オンライン会議に慣れよう！講座



成果・課題

オンラインの便利機能や、アイスブレイクを有効に活用することにより、対面と遜色なく使いこなすべを学んだ。一方で、ITCを使わないことを選んだ方々のフォローも必要である。

Ⅱ-2 オンライン会議に慣れよう！講座

日時:2021年9月21日(火)13:30~15:30

会場:オンライン(ZOOM)

講師:青木将幸ファシリテーター事務所
代表 青木 将幸 氏

参加者:21名(うち事務局2名)

内容:オンラインツール(zoom)の使い方
オンラインでのアイスブレイクのコツ
機能紹介(画面共有・ブレイクアウトルーム・投票)

企画・プレゼン力向上講座

Ⅱ-3 -4 企画・プレゼン力向上講座

①企画を作る際のポイント

日時:2022年3月13日(日)13:30~16:30

②伝わる企画書とプレゼンのポイント

日時:2022年3月20日(日)13:30~16:30

会場:オンライン(ZOOM)

講師:大木浩士氏

参加者:①12名 ②10名

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

企画・プレゼン力向上講座

内容:企画を作る際のポイント

①ビフォー&アフターを考える②「共感と驚き」のある課題設定③課題を解決可能なものに分解する④「ああ、そういうことか!」を見つけ出す⑤企画づくりの基本は三方よし⑥人のつながりをデザインする⑦ターゲットと一緒に企画をつくる⑧「今の自分にできること」の発想を持つ

伝わる企画書とプレゼンのポイント

①頭の中にあるものを外に出す②要素を分けて考えを深める③話しながら内容を磨く④相手の立場で伝える⑤内容を考える⑥設計図をつくる⑦パソコンで作成



成果・課題

講師の実体験に基づくポイントが整理してお話いただき、理解しやすい内容だった。特に、企画の際に独りよがりにならないために、企画から受益者を巻き込む手法は講師の得意とするところであり、NPO等にも役立つところであった。

事業報告の作り方

Ⅱ-5 事業報告の作り方

日時:2022年2月25日(金)13:00~15:00

会場:オンライン(ZOOM)

講師:とちぎボランティアNPOセンター
コーディネーター 町田 英俊

参加者:6名

内容:事業報告の作り方、活動計算書の作り方
所轄庁報告、法務局報告など

成果・課題

参加人数は多くはなかったが、事前の質問も比較的によく、参加者の疑問に寄り添い開催することが出来た。情報公開はNPOの信頼の根幹でもあり、事務担当者が迷わず行えるよう、講座や相談を通して進めていきたい。

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

協働推進員養成講座	<p>Ⅲ 協働推進員養成講座</p> <p>定員:20名 ※受講者に修了証を発行</p> <p>内容:県内において、多様な主体による協働の取り組みは、地域課題の解決に大きな成果を上げている。本講座では、地域課題解決のための「つなぐ」役割の重要性を再認識し、地域で協働を推進する人材づくりを目的に、4回シリーズで開催した。第2回、第3回は協働の現場から中継して学んだ。</p> <p>延べ参加人数:26名</p> <p>●第1回 事例学習inぽ・ぽ・ら 「協働について考えてみよう！」 日時:2022年2月4日(金) 13:00~16:00 会場:オンライン 講師:とちぎボランティアNPOセンター コーディネーター 町田 英俊</p> <p>参加者:8名 まとめ等:協働とは互いのことを知り繋がり合うこと。 「協働のコツ」を用いて協働の考え方を学んだ。</p>	協働推進員養成講座
-----------	--	-----------

- 第2回 現地学習in那須塩原市
「ゆるやかにつなぐ力」
日時:2022年2月17日(木) 13:00~16:00
会場:学校法人アジア学院(オンライン)
講師:学校法人アジア学院 事務局長
佐久間 郁氏ほか
- 参加者:7名
まとめ等:プラットフォーム型の協働事例。
関わる人がフラットに意見を言いやすい場づくり及びボランティアコーディネーションのコツ。
- 第3回 現地学習in栃木市
「郷土の偉人と巻き込む力」
日時:2022年2月23日(水・祝)
13:00~16:00
会場:プラッツおおひら(オンライン)
講師:田村律之助顕彰会 会長 鈴木 廣志氏
同 理事の皆さん
- 参加者:4名
まとめ等:様々な種類の活動メニューと関わり方の提示

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

協働推進員養成講座

●第4回 振り返り・まとめ
「地域の関わりしろをみつけよう」
日時:2022年3月11日(金)13:00~15:00
会場:オンライン
講師:とちぎボランティアNPOセンター
コーディネーター 町田 英俊
参加者:7名
まとめ等:第1回から第3回までの振り返り。「参加メンバー内でどのように協働し合えるか」についてのワークショップ

成果・課題
成果:参加者に地域おこし協力隊が多かった。彼らの横のつながりを作ることができた。
課題:コロナ禍で、対面講座が全くできなかったため、次年度に実際に現場視察すること及び、参加者の直接的な顔合わせの機会を作るなどのフォローアップの必要性を感じた。

今更聞けないコロナ禍での活動の仕方

IV-1 今更聞けない、コロナ禍での活動の仕方
~つながりを切らせないために~
日時:2021年8月5日(木)13:30~15:00
会場:オンライン(ZOOM)
講師:生協ふたば診療所/千葉大学先進予防医学
共同専攻博士課程 千嶋 巖氏
光プロジェクト株式会社
代表取締役 杉村 卓哉氏
参加者:16名
内容:新型コロナウイルスの対策方法について、
また、変異種への対策、ワクチンの効果とリスクについて、コロナ禍で押さえておくべき感染症対策のポイントを医師と感染症対策の実践者から学び、活動の仕方を共に考えた。

成果・課題
成果:最近開発されたワクチンや変異種に関する情報を専門家である医師から発信してもらうことができた。
課題:既に活動を行っている団体にとっては、自団体でどうすべきか?ということをもっと深めるために、質疑応答の時間を長くとることが求められていたかもしれない。

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

NPOとつながる地域づくり

IV-2 NPOとつながる地域づくり

講座名: これまでを大切にする地域づくり

日時: 2022年3月12日(土) 10:00~12:00

会場: オンライン(ZOOM)

講師: NPO法人とちぎ協働デザインリーグ
副理事長 廣瀬隆人氏

参加者: 37名

内容: 地域づくりにおいては、今までやってきたこと、今も続けていること、これらの先人事例を大切にすることが重要である。先進事例からは「心」を真似るべき。今までやってきたことの中に変化を埋め込んでいく。お互い様の関係が大切。地域づくりは人づくりである。

成果・課題

- ・聴衆を惹きつける講義内容であり、はっと気づかされたり、元気をもらえる部分が多く、受講者に講師の熱い思いが十分に伝わったようである。
- ・事前の質問内容への回答を当日のスライド内に加えていただいたため、自然な形で共有出来た。
- ・那須塩原市社会福祉協議会では、本講座を地区の研修会に位置付け、南公民館をサテライト会場として20名が参加した。また、新潟県や埼玉県からの受講者もあり、オンラインならではの広域的な参加が可能となり、効果的だった。
- ・「地域づくり」のテーマについては、リアルで集まって参加者が話し合うような形も検討したい。

NPOとつながるSDGs

IV-3 NPOとつながるSDGs

日時: 2021年12月14日(火) 13:30~15:30

会場: とちぎボランティアNPOセンター

講師: NPO法人とちぎ協働デザインリーグ 理事
NPO法人トチギ環境未来基地
理事長 塚本 竜也 氏

参加者: NPO等8名

内容: 国連で採択された「SDGs」。誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し17のゴールが示された。NPOとどのようにかかわってくるのか？ゴールごとに、NPOの活動と照らし合わせて探っていく。



成果と課題

- ・行政や経済界と「SDGs」という、ツールを使うことで共通言語化し、連携協力が容易になる可能性を感じた。
- ・一方で、賞味期限のあるコンテンツでもあり、これらにばかりとられることなく、NPO等が自らの活動を地道に行うことも重要だと感じた講座だった。

(4)NPO担い手育成業務

①「ぽぽら市民活動大学校」

Ⅳ-4 人とつながる地域共生社会

日時:2022年1月20日(木)13:30~15:30

会場:とちぎボランティアNPOセンター、オンライン

講師:福聚会・無量荘グループ 代表
栃木県生活支援体制整備アドバイザー
青田 賢之氏

参加者:13名

内容:地域福祉というと、高齢者の問題と考えがちだが、「地域共生社会」のように一人ひとりが地域の中で役割を持ち支え合う社会が大切である。本講座では、地域福祉の専門家とともに、NPOや市民活動団体が、どのように関わり合いながら「地域共生」となっていくのかを探る。



成果・課題

- ・地域共生社会について制度のアドバイザー及び、活動者として一線で活躍している講師から、話を聞くことができ学びが深まった。特に、地域にある多くの資源とつながって成立する地域共生社会の中では、主たる事業が介護事業でない事業所もつながり、関わる必要がある中で、中間支援センターや共同募金会などが参加したことには、一定の効果があつた。
- ・一方で、多くの団体に気づき参加してもらう点では、広報に工夫が必要だった。

(4)NPO担い手育成業務

①-2「ぽ・ぽ・ら出前講座」(市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>より多くの県民が社会貢献活動への関心を高め参加する機会を設けるため、多様な講座テーマを設け、地域や団体等からの依頼に応じて、出前で講師を派遣する。</p>																	
<p>内容</p>	<p>次の開催条件に基づき、2021年4月から出前講座の応募を開始し、12講座を実施した。</p> <p><講座メニュー></p> <table border="1" data-bbox="223 625 913 1086"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>講座名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NPO入門、NPO法人運営の基礎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会計の基礎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>労務の基礎</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>協働のコツ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>オンライン会議の開き方</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ボランティア入門</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域活性化のための取組サポート</td> </tr> </tbody> </table> <p>・定員:概ね10名以上～20名未満(ボランティア団体やNPO法人、自治会等の団体などが対象)</p> <p>・時間:午前10時から午後8時30分まで。 1講座60～90分</p> <p>・回数:全体で15講座まで。原則として1団体につき1講座まで</p>	No	講座名	1	NPO入門、NPO法人運営の基礎	2	会計の基礎	3	労務の基礎	4	協働のコツ	5	オンライン会議の開き方	6	ボランティア入門	7	地域活性化のための取組サポート	<p>・場 所:申込者が指定する会場(県内)</p> <p>・場 所:申込者が指定する会場(県内)</p> <p>・費 用:講師の派遣費用や資料代は無料。 会場に係る費用は申込者負担。</p> <p>※講座実施後、申込者から感想シートを提出(任意)してもらい、今後の企画等に活かすものとする。</p> <p><実施状況></p> <p>① 宇都宮市まちづくりセンター まちぴあ 「まちぴあ講座(SDGsを学ぼう講座)」 日 時:2021年4月24日(土)19:00～21:00. 参加者:9名</p> <p>② 那須烏山市烏山公民館 「地域ぐるみのボランティア」 日 時:2021年5月23日(日)10:00～11:30 参加者:16名</p> <p>③ 特定非営利活動法人 ころのバトン、さくら市地域共生センター 共催 「オンラインツールの使い方」 日 時:2021年5月25日(火)10:00～12:00 参加者:10名</p> <p>④ 宇都宮市景観みどり課 「宇都宮市緑化ボランティア養成講座」 ボランティア活動を始めよう! 日 時:2021年6月9日(水) 参加者:15名</p>
No	講座名																	
1	NPO入門、NPO法人運営の基礎																	
2	会計の基礎																	
3	労務の基礎																	
4	協働のコツ																	
5	オンライン会議の開き方																	
6	ボランティア入門																	
7	地域活性化のための取組サポート																	

(4)NPO担い手育成業務

①-2「ぽ・ぽ・ら出前講座」(市民活動大学校)

内容	<p>⑤ 佐野市市民活動支援センター ここねっと 「みんなのしゃべり場」 日 時: 2021年6月12日(土) 参加者: 16名</p> <p>⑥ 社会福祉法人 鹿沼市社会福祉協議会 「Zoomを使ったオンライン会議の開き方」 日 時: 2021年7月9日(金) 10:00~12:00 参加者: 9名</p> <p>⑦ 氏家市立氏家中学校 「NGO/NPOについての職業人講和」 日 時: 2021年7月16日(金)13:00~16:00 参加者: 32名</p> <p>⑧ 社会福祉法人 鹿沼市社会福祉協議会 「Zoomを使ったオンライン会議の開き方」 日 時: 2021年7月27日(金) 10:00~12:00 参加者: 10名</p> <p>⑨ 栃木県社会福祉協議会 社会福祉協議会初任者研修会 「ボランティア、NPOセンターの役割、国際協力について」 日 時: 2021年9月2日(木)10:30~12:00 参加者: 21名</p>	内容	<p>⑩ さくら市市民活動センター ボランティア入門「いちご編みワークショップ」 日 時: 2021年10月30日(土)13:30~15:30 参加者: 13名</p> <p>⑪ 栃木県社会福祉協議会 ボランティア入門「いちご編みワークショップ」 日 時: 2022年1月19日(水)10:30~12:30 参加者: 13名</p> <p>⑫ 下野市生涯学習情報センター YOUがおDEコラボ 日 時: 2022年1月21日(金)8:30~11:30 参加者: 9名</p>
	成果・課題	成果・課題	<p>成果: コロナ禍のため、ワークショップの方法を感染症対策をしながら行うなど、対面形式で行う予定のものをオンライン化するなどして開催することができた。</p> <p>課題: 仮予約があったものの、連絡がないまま自然消滅した講座が存在したため、申し込み申請書にキャンセルに関する文言を明記する必要がある。</p>

(4) NPO担い手育成業務

①-2 ぽ・ぽ・ら出前講座2021

Zoomを使ったオンライン会議の開き方(鹿沼市社協)



地域ぐるみのボランティア(那須烏山市烏山公民館)



(4)NPO担い手育成業務

①-3「NPO等への専門家派遣」(市民活動大学校)

<p>目的</p>	<p>社会貢献活動団体等が、新たに実施する取組内容に際して、専門的知識や実践経験を有する者による助言等の支援を行い、当該団体等の活動を一層促進することにより、地域における課題解決のために自立して活動できる人材育成につなげる。</p>	
	<p>団体等が新たな取組を実施するに当たって専門家を派遣する。団体等が抱える課題等について、専門家による助言・提案等により解決をサポートする。</p> <p>①対象となる団体等：栃木県内のNPO、ボランティア団体、自治会等の団体（法人格の有無は問わない）</p> <p>②対象となる取組：原則として、新規又は既存の取組を拡充して行われるものであること。</p> <p>③派遣する団体等：最大3団体まで</p> <p>④派遣回数：1団体当たり3回まで（1回当たり2時間）</p>	<p>内容</p> <p>(2)宇都宮市富士見地域まちづくり推進協議会への専門家派遣</p> <p>内容：地域の担い手不足、役員会の進め方等への助言</p> <p>日時：第1回：2022年2月9日（水）10:00～11:30 第2回：2022年2月19日（土）10:00～11:30</p> <p>会場：富士見地域コミュニティセンター</p> <p>専門家：NPO法人とちぎ協働デザインリーグ 副理事長 廣瀬 隆人氏</p> <p>出席者：富士見地域まちづくり推進協議会：会長、副会長ほか、各地区役員。宇都宮市西生涯学習センター2名、宇都宮市みんなでまちづくり課2名、ぽぽらスタッフ2名</p>
<p>内容</p>	<p><実施状況></p> <p>(1)「あいだっこ(足利市)」へのアウトリーチ支援</p> <p>前年度に実施した専門家派遣事業のフォローアップとして、任意団体の一般社団法人化について、スタッフがその後の進捗状況を確認し、助言を行った結果、2021年12月に法人化が実現した。</p> <p>団体名：一般社団法人あいだっこ</p> <p>事業：地域の魅力を発信する事業、地域資源を活用し活性化を図る事業、移住・定住を促進する事業、若者の地域体験交流を促進する事業、地域社会における教育の充実を図る事業</p>	<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度事業をフォローアップし、任意団体の一般社団法人化が実現。 ・今年度は、公募も実施したが、応募は2件と少なかった。 ・応募が少ない原因は、コロナ禍で団体の活動が停滞している、団体が気軽に取り組みにくい点があるなどが考えられる。次年度は事業名称や実施方法等工夫したい。

(4) NPO担い手育成業務

①-3 NPO等への専門家派遣

宇都宮市富士見地域コミュニティセンター





専門家からの助言等



(4)NPO担い手育成業務

②ボランティア参加機会の推進

<p>目的</p>	<p>とちぎ国体・とちぎ大会いちご一会ボランティアプロジェクトの実施 2022年度に開催される「とちぎ国体・とちぎ大会」に向けて、本県特産のいちごをモチーフにした「手編みのいちごクリーナー」の寄附を県民から広く募り、大会開催時に来訪者に配布して、エコとおもてなしの心を持ち帰ってもらう。 コロナ禍でもできる、「おうちで始めるボランティア」として、県民のボランティア参加のきっかけづくり、裾野拡大を図る。</p>	<p>②いちご編みワークショップの実施 本プロジェクトの普及を図るため、ぽぽらにおいて概ね月1回、いちご編ワークショップを開催したほか、関係機関への出前講座を実施した。延べ36名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2021年 4月24日(土) 13:30～15:00 1名参加 ②2021年 5月19日(水) 13:30～15:00 1名参加 ③2021年 6月12日(土) 13:30～15:00 1名参加 ④2021年 7月15日(木) 13:30～15:00 1名参加 ⑤2021年10月23日(土) 13:30～15:00 2名参加 ⑥2021年10月30日(土) 13:30～15:00 さくら市13名 ⑦2021年11月16日(火) 13:30～15:00 3名参加 ⑧2021年12月11日(土) 10:30～12:00 参加者なし ⑨2022年 1月19日(水) 10:30～12:30 県社協13名 ⑩2022年 3月26日(土) 13:30～15:00 1名参加
<p>内容</p>	<p>①いちごクリーナーの寄附募集 ボランティア参加のきっかけづくりとして、広く県民から手編みのいちごクリーナーの寄附を募集する。 ・目標数 500個/年→実績 1,464個、累計 5,320個</p> <p>いちごクリーナー</p>  	<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちごクリーナーの寄附数は目標を大きく超過。 ・寄附への協力は、市町中間支援センターや社会貢献活動団体、介護支援施設、地域の自治会等、他団体での自主的な取組にも広がっている。 ・来年度に向けて、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、国体の開催が難しくなった場合の対応を検討。

(4)NPO担い手育成業務

②先進事例調査、研修参加

No.	月 日	事業名	主 催
1	2021年 4/16(金)	休眠預金制度説明会	とちぎコミュニティ基金
2	5/26(水)27(木)	JVOAD研修会	JVOAD
3	6/2(水)	NPOと行政の対話を促進するための基礎講座①	日本NPOセンター
4	6/4(金)	災害ボランティアネットワーク会議	栃木県社会福祉協議会
5	6/25(金)	NPOと行政の対話を促進するための基礎講座②	日本NPOセンター
6	6/25(金)	CIS国の孤独・孤立対策施策に関する政策提言に向けた打ち合わせ	CIS
7	7/6(火)	子ども食堂ネットワーク会議	若年者支援機構
8	7/9(金)	災害連絡会議訓練	栃木県
9	7/14(水)	JCNEオンラインセミナー	非営利組織評価センター
10	8/20(金)	令和3年度災害に関する土業連携研修会	栃木県社会福祉協議会
11	10/19(火) 11/2(火)	会議を支えるデザインとファシリテーション ZOOM	NPOサポートセンター
12	10/29(金)	コミュニティカレッジ第1回	栃木県コミュニティ協会
13	11/1(月)	令和3年度第2回地域包括ケア応援セミナー	厚生労働省
14	12/11(土)	コミュニティカレッジ まちあるき研修会in南摩	栃木県コミュニティ協会

(4)NPO担い手育成業務

②先進事例調査、研修参加

No.	月 日	事業名	主 催
15	12/21(火)	地域共生社会シンポジウム	栃木県社会福祉協議会
16	2022年 1/13(木)	Wam助成金説明会	日本NPOセンター
17	1/28(金)	栃木県教育研究発表大会 生涯学習部会 ZOOM	栃木県
18	2/5(土)	広報のコンプライアンス講座	コラボーレもおか
19	2/10(木)	労働者協同組合勉強会	認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房
20	2/22(火) 3/1(火)	災害ボランティアセンター運営コーディネーター育成研修(初級)	栃木県社会福祉協議会
21	2/15(火)	とちぎの自然体験 地域意見交換会 zoom	とちぎ自然体験活動コンソーシアム
22	3/2(水)	NPO事務力検定認定講習	全国NPO事務支援カンファレンス

(5) 市町市民活動支援センター支援業務

(5) 市町市民活動支援センター支援業務

<p>目的</p>	<p>地域における中間支援の担い手である市町センターの連携向上により、県の中間支援機能の充実、強化、ネットワーキングを図る。</p>	
<p>内容</p>	<p>①市町センターとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年6月18日(金) 第1回市町センターネットワーク担当者会議開催、主に昨年度トピックスと今年度の課題を共有。(ZOOM) ・コロナ禍状況の推移を見ながら、年度末にリアル又はオンラインで第2回を開催し、今年度のまとめを共有することを検討中。 <p>②市町センター新任スタッフ研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回2021年9月10日(金)(ZOOM) 12名 中間支援センターの役割(座学) コンセンサスゲーム(実習) ・第2回2021年11月5日(金)(ZOOM) 8名 オンライン会議開催の基礎(実習)ほか ・第3回2022年1月14日(金)(ZOOM) 12名 NPOとは? 基礎と実習 ・第4回2022年3月4日(金))(ZOOM) 10名 知っておきたい広報のコンプライアンス講座 	<p>③テーマ別市民活動交流サロン(検討課題)</p> <p>社会課題や実務上必要なテーマについて市町センター、社会福祉協議会、NPO、公民館などが合同で考える事により、各々の理解を深めると同時にヨコの関係強化を図る。</p> <p>④定期訪問・事業の共同開催</p> <p>ア 定期訪問</p> <p>4~5月に県内14か所の市民活動支援センターを訪問し、地域課題の把握、取組などについて意見交換し、連携強化した。</p> <p>イ 共同開催</p> <p>2021年4月24日(土) 宇都宮市まちづくりセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちぴあ講座(SDGsを学ぼう講座) 9名 <p>2021年6月12日(土) 佐野市市民活動センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのしゃべり場 11名 <p>2021年10月8日(金) 宇都宮市まちづくりセンター、さくら市市民活動支援センター、真岡市市民活動推進センター、小山市市民活動推進センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぽ・ぽ・ら市民活動大学校 「ファンドレイジング~私たちの資金調達」 ・まちぴあ講座「助成金合同説明会」 <p>2022年1月21日(金) 下野市生涯学習情報センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YOUがおDEコラボ/仲間たちの集い 9名

(5) 市町市民活動支援センター支援業務

⑤ 新設センター、未設置市町へのアウトリーチ支援

- ・下野市市民活動支援センター(仮称)が2022年5月に新設予定のため、情報提供等の支援を行った。
- ・小山市では、生涯学習センターの直営化が撤回され、新たな検討組織を設けて、生涯学習や市民活動に関連する施設の運営方法を見直すという動きが出ている。
- ・さくら市では、市民活動支援センター2年目に向けて新たにコーディネーター2名の採用が決まった。(4月から市職員はセンターに駐在しない。)

⑥ 県内外中間支援センターの先進事例調査(年1回)

期 日: 2021年12月17日(金)

形 態: オンライン

視察先: NPO法人長野県NPOセンター、長野市市民協働サポートセンター まんまる、(公財)長野県長寿社会開発センター

参加者: 17団体(25名)

方 法: スタッフ2名が現地からオンライン中継

13:00~15:10 長野市市民協働サポートセンター
まんまるの説明及び質疑応答

15:10~15:30 休憩・スタッフが移動
この間にまんまる作製のまんまる
紹介YouTube動画を放映

15:30~16:30 長野県長寿社会開発センターの
説明及び質疑応答

内
容

長野市市民協働サポートセンター調査



成
果
・
課
題

- ・来所者や相談者、相談団体などとあらゆる機会を捉えて会話し、出向き、一度得た縁は切らず継続してつながり続ける努力をしている。
- ・未来を担う若者に対しては、社会と関わる第一歩としてきめ細やかに対応し、継続した関係性を作っている。
- ・コロナ渦により多くの事業がオンライン化を余儀なくされたが、遠隔地に強い利点を生かして目的達成。
- ・ネットワーク維持とさらなる内容強化、充実が課題。

内
容

(6) ネットワーク運営業務

(6) ネットワーク運営業務

<p>目的</p>	<p>県内の多様な主体間のネットワークを構築・強化し、社会貢献活動への支援環境の充実を図るとともに、協働の取組を推進する。</p>	<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティアの受入れ 宇都宮共和大学からの依頼により、大学生1名をぽぽらサポーター(ボランティア)として受け入れた。サポーターには、来館者対応など、ぽぽら業務を経験してもらうとともに、若者の社会貢献活動をテーマに事業企画等を検討してもらった。 ・2021年7月～2022年3月、毎週土曜日に来所 <p>④災害ボランティア活動に係る連携促進 災害ボランティア活動連絡会議の運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回災害ボランティア活動連絡会議 2021年4月27日(火)13:00～15:30 ・栃木県危機管理課主催 災害図上訓練 2021年7月9日(金)13:30～15:00 <p>⑤関係機関の委員への就任等 適宜関係機関との事業への協力に努める。</p>
<p>内容</p>	<p>①「市民活動支援ネットワーク会議」の運営 市民活動支援の輪の拡大を図るとともに、関係機関における緩やかなネットワークを構築・強化するため、行政、中間支援組織等を対象に、効果的な市民活動支援のための検討会、勉強会を実施する。必要に応じて、経済団体や士業界等にも参加・協力を求める。</p> <p>②公民館、社会福祉協議会との連携模索 県内における中間支援環境の充実を図るため、センター未設置市町を中心に、公民館、社協との関係構築、中間支援事業に係る情報共有・事業連携を模索する。 ・5月23日那須烏山公民館 ボランティア講座(再掲)</p> <p>③他部局、県内大学、シルバー大学校等との連携 理事のネットワークを生かし、大学の地域連携センターやシルバー大学校等に対し、出前講座や情報提供を行い、学生の社会貢献活動参加促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー大学校の社会貢献活動マッチング事業参画 2021年12月27日(月):北校 2022年3月2日(水):南校 新型コロナウイルスの感染拡大により中止 2022年3月7日(月):中央校 新型コロナウイルスの感染拡大により中止 	<p>成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー大学校で4～5月開講予定の講座「ボランティアを始めよう」を市町中間支援センターと協力して検討企画中。 シルバー大学校との連携強化を、様々な中間支援・市民活動団体との協働の起点として生かしたい。

(6) ネットワーク運営業務



シルバー大学の社会貢献活動マッチング授業



(7) その他

(7)その他

1 各種会議・研修等への協力

・岐阜県内市民活動支援センター交流会

日時:2021年9月8日(水)15:00~17:00

会場:オンライン

主催:ぎふNPOセンター

参加者:16名

内容:災害時の市民活動支援センターの役割について、日本NPOセンター事務局長 吉田氏とともに、事例等をお話した。

2 とちぎコミュニティ基金(事業協力)

がんばるNPOと支援者をつなぐため、「寄附の窓口」と「NPOによる情報公開の促進」の2つの機能を持ち、「民が民を支える仕組み」づくりを行う事業に実施協力する。

・冠ファンド助成「花王ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)」の実施

・冠ファンド助成「たかはらこども未来基金」の実施

(1) たかはら子ども未来基金

①審査会:2021年5月1日(土)

内容:助成部門の審査、表彰事業の検討、学生インターン部門について

②審査会:2021年6月24日(木)

内容:学生インターン部門の受入団体の選考

③贈呈式:2021年8月20日(金)

内容:学生インターン部門の助成金贈呈

④報告会:2022年3月6日(土)

(2) 花王ハートポケット倶楽部審査会

①審査会:2021年12月14日(火)

内容:助成部門の審査、表彰事業の検討、学生インターン部門について

②報告会:2022年3月6日(土)

内容

内容

(7)その他

① 関係機関の委員への就任、職員派遣等

No	月 日	内 容	主催者
1	2021年 5/1(土)	たかはら子ども未来基金打合せ	とちぎコミュニティ基金
2	5/14(金)	日光市オアシス事業協議会 参加協力	日光市
3	5/22(土)	鹿沼市市民協働モデル事業審査会	鹿沼市
4	6/23(水)	たかはら子ども未来基金審査会	とちぎコミュニティ基金
5	8/19(木)	宇都宮市ふるさと納税公益活動支援事業審査会	宇都宮市
6	8/20(金)	たかはら子ども未来基金贈呈式・オリエンテーション	とちぎコミュニティ基金
7	8/30(月)	ぎふNPOセンター災害関係事業協力 事前打合せ	ぎふNPOセンター
8	9/8(水)	ぎふNPOセンター災害関係事業協力	ぎふNPOセンター
9	9/22(木)	宇都宮大学ENMUSUBI事業協力	宇都宮大学
10	11/8(月)	みんなでまちづくり会議	宇都宮市
11	11/17(水)	JT助成金授賞式	JT北関東支社
12	12/14(火)	花王ハートポケット倶楽部助成審査会	とちぎコミュニティ基金
13	12/22(水)	まちぴあ貸しオフィス審査会	宇都宮市まちづくりセンター

(7)その他

① 関係機関の委員への就任、職員派遣等

No	月 日	内 容	主催者
14	12/23(水)	花王ハートポケット倶楽部審査会	とちぎコミュニティ基金
15	2022年 2/10(木)	夢ファーレ1次審査	栃木市
16	2/ 7(月)	とちぎUIJターン促進協議会	栃木県
17	2/15(火)	地域で輝くふくしのチカラ大賞実践フォーラム	栃木県
18	2/24(木)	とちぎコープNPO法人助成金審査委員会	とちぎコープ生活協同組合
19	3/ 3(木)	栃木県経済同友会表彰選考委員会	栃木県経済同友会
20	3/ 5(土)	夢ファーレ2次審査	栃木市
21	3 /6(日)	とちぎのミライをつくる大会2022	とちぎコミュニティ基金
22	3/14(月)	とちぎコープNPO法人助成金審査委員会	とちぎコープ生活協同組合
23	3/24(木)	栃木県社会福祉協議会評議員会	栃木県社会福祉協議会

2 NPO法人 とちぎ協働デザインリーグ事業

1 つながり回復プロジェクト(栃木県共同募金会助成事業)

目的

地域の課題であった「つながり」が、コロナ禍をきっかけに弱まっている。ボランティアNPO等の活動も縮小している。今後アフターコロナに向けて、積極的に取り組み、ボランティアNPO等によるつながりを回復し、ひいては地域課題の解決に結びつけていく。

内容

1 つながりを考える会

多様な現場から、つながりの現状、課題、様々な事例、疑問を持ち寄り、知恵を集めて、つながりを維持・発展するための具体的方策を検討提示する。

(1) 考える会メンバー募集

- ・市町中間支援センター、市町社会福祉協議会あて協力・参加者推薦依頼(7/1)
- ・NPO等から選考(障がい者福祉、子どもの支援、高齢者福祉分野)

合計 10名 (他リーグ職員6名)

所属先	職	属性
佐野市市民活動センターここねっと	コーディネーター	中間支援センター
認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房	理事	中間支援センター
NPO法人みぶまち地域活性化21	事務局長	中間支援センター
鹿沼市社会福祉協議会	職員	社会福祉協議会
那須烏山市社会福祉協議会	職員	社会福祉協議会
認定NPO法人チャレンジド・コミュニティ	理事長 他職員	NPO等
オフィスC	代表	高齢者福祉人材育成
認定NPO法人蔵の街たんぽぽの会	理事長 他職員	NPO等

内容

(2) 考える会開催実績

回	月 日	内容
オリエンテーション	8月24日(火)	・顔合わせ ・zoom確認 ・自己紹介など
第1回	9月3日(金)	・現状と課題について意見交換
第2回	9月24日(金)	Q&A検討 (主にQ)
第3回	10月6日(水)	A(回答)案検討
第4回	10月27日(水)	Aを深める意見交換
第5回	11月12日(金)	草稿案を深める
第6回	12月10日(金)	最終稿確認 振り返り

2 つながり回復リレー講座

(1) 開催方法

オンライン実施(ZOOM)

18:30~20:00(受付18:15)

事前予約 参加費無料

(2) 協力団体

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

NPO法人トチギ環境未来基地

NPO法人わたらせ未来基金

NPO法人野うさぎくらぶ

NPO法人レインボー

1 つながり回復プロジェクト(栃木県共同募金会助成事業)

(3)開催実績

回	月日	演題	講師	実績
第1回	9/15(木)	若者へのコロナの影響とつながりの回復	岩井俊宗氏 (とちぎユースサポーターズネットワーク代表理事)	参加者17名
第2回	9/30(木)	不急の活動の価値を見失わないために	塚本竜也氏 (トチギ環境未来基地理事長)	参加者19名
第3回	10/14(木)	コウノトリが運んできたつながり	青木章彦氏 (わたらせ未来基金理事長)	参加者9名
第4回	10/2(水)	子育て環境はつながりから	矢口和美氏 (野うさぎくらぶ理事長) 宮田里枝氏 (レインボー理事長)	参加者21名
第5回	11/18(木)	県内コミュニティのコロナ禍でのつながる努力	三橋伸夫氏 (とちぎ協働デザインリーグ理事長)	参加者18名
第6回	12/2(木)	「つながり回復を考える会」報告	考える会メンバー	参加者14名

内容

3 マネジメントマニュアル作成

(1)リレー講座テキスト集作成
(A4 75ページ)

- ・回ごとの資料を編集
- ・12月原稿作成、1月印刷・発送行った。
- ・講座の様子を3/31まで限定公開。



内容

(2)「つながり回復を考える会」Q&A作成
(B6 67ページ程度)


- ・12月原稿作成、1月印刷・発送行った。
- ・自治体、地区社協等から追加発送の依頼あり。発送を行った。

成果・課題

コロナ禍における現場の苦労や様々な工夫・努力の実態を把握することができた。プロジェクト実施に当たっては、全ての事業を対面でなくオンラインで実施したが、オンライン上でもこれだけのことが出来るとの手応えを得て、今後の「つながり回復」を支援していく上で大きな財産となった。

2 地域コミュニティ再生促進事業

協働の現場を訪ねる～サシバの里づくりを体感しよう(栃木県コミュニティ協会助成)

目的	<p>近年、人口減少や少子高齢化等によるコミュニティ機能の低下が課題となる中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、地域活動の停滞や縮小にも影響を及ぼしている。こうした厳しい現状において、NPO法人オオタカ保護基金サシバの里自然学校では、行政や地域、企業等との協働により、自然とコミュニティとの調和による地域づくりに積極的に取り組んでいる。そこで、その活動現場を直接訪問して、自然を核とした地域づくりを体感し、現状や課題等を学ぶことにより、今後の地域コミュニティの活性化に活かすことを目的とする。</p>	内容	
内容	<p>当初、9月末に事業実施予定であったが、緊急事態宣言中となり、12月に延期して実施した。</p> <p>①事業名：協働の現場を訪ねる 「サシバの里づくりを体感しよう」</p> <p>②日時：2021年12月5日(日)13:00～16:00</p> <p>③会場：サシバの里自然学校(市貝町)</p> <p>④講師：NPO法人オオタカ保護基金 サシバの里自然学校 校長 遠藤 隼氏</p> <p>⑤対象：自然やコミュニティ、地域づくり、協働に関心のある方</p> <p>⑥参加者：14名</p> <p>⑦主な内容：自然学校周辺の自然観察、取組説明、グループワーク、意見交換・交流等</p>	成果・課題	<ul style="list-style-type: none">・NPO法人オオタカ保護基金では、国際的な連携によるサシバの保護を核として、行政や企業等との協働による「サシバの里づくり」に貢献している。・また、サシバの里自然学校では、古民家と周辺の自然を活かした、幼いころからの子どもの環境教育を促進しており、参加者が自然学校で得た経験を将来に向けた学びにつなげることを目指している。・今回の講座には親子での参加もあり、自然学校の目指すものが、より明確に伝わったのではないかとと思われる。・参加者の地域づくりやコミュニティ活動の参考になったものと思われ、今後の活動の強化、活性化につながることが期待される。

NPO法人とちぎ協働デザインリーグ事業

内容		内容
	<p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策 コロナ禍で活動に困難が生じている団体に対して、活動支援のための事業を実施する。</p> <p>(2) とちぎコミュニティ基金(事業協力) がんばるNPOと支援者をつなぐため、「寄附の窓口」と「NPOによる情報公開の促進」の2つの機能を持ち、「民が民を支える仕組み」づくりを行う事業に実施協力する。</p> <ul style="list-style-type: none">・冠ファンド助成「花王ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)」の実施・冠ファンド助成「たかはらこども未来基金」の実施 <p>(3) 講師派遣 リーグ役職員の知識やノウハウを活かし、要望に応じて講師派遣を行った。</p> <p>栃木県自治会連合会への派遣 「令和3年度栃木県自治会連合会会長研修大会」 日 時:2022年2月8日(火)～3月8日(火) 会 場:動画配信 講 師:理事長 三橋伸夫 内 容:コロナ禍での自治会のつながる努力 視聴回数:114回</p>	<p>(4) 情報発信 リーグホームページやブログ、フェイスブックの運用及び「リーグファイル」「事業報告書」を作成し調査研究等で得た情報を提供した。</p> <p>(5) 職員研修 スタッフの資質向上を図るため、各種研修等に積極的に参加した。</p> <p>(6) 法人運営</p> <p>①常任理事会の開催:4回 2021年4月13日(火)、5月18日(火)、7月13日(火)、2022年1月11日(火)</p> <p>②理事会・総会の開催</p> <p>ア)第1回理事会・総会:2021年6月15日(火) ・2020年度事業報告・決算報告 ・2021年度事業計画(案)・活動予算書(案)</p> <p>イ)第2回理事会:2020年10月28日(木) ・2021年度上期事業報告・下期事業計画(案) ・2021年度補正予算(案) ・育児・介護休業等に関する細則(案)</p> <p>ウ)第3回理事会:2022年3月24日(木) ・2022年度事業計画(案)・予算(案)</p>